令和３年度

福島県環境審議会第２部会議事録

（令和３年９月１６日）

１　日時

令和３年９月１６日（金）

午後　１時３０分　開会

午後　３時５０分　閉会

２　場所

オンラインにより開催

なお、一部委員及び事務局は会場（杉妻会館３階百合）から参加した。

３　議事

（１）福島県水環境保全基本計画の改定について

（２）猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画の改定について

（３）福島県廃棄物処理計画の改定について

４　出席委員

石庭寛子、大迫政浩、河津賢澄（議長）、崎田裕子、清水昌紀、髙橋龍之、髙野イキ子、武石稔、武田憲子、丹野淳、中野和典、新妻和雄、西村順子、沼田大輔、油井妙子、渡邊明　以上１６名

（五十音順）

※河津委員、髙野委員及び油井委員は会場で参加した。

５　欠席委員

大宅宗吉、小野広司　以上２名

（五十音順）

６　事務局出席職員

生活環境部

髙橋徳行　　環境回復推進監兼環境保全担当次長

星正敏　　環境共生担当次長

（環境共生総室水・大気環境課）

小池由浩　　課長

渡邉善之　　副課長兼主任主査　　他

（環境保全総室一般廃棄物課）

三浦健生　　課長

鈴木宏孝　　主幹　　他

（環境保全総室産業廃棄物課）

濱津ひろみ　産業廃棄物課長

梅田光裕　　副課長兼主任主査　　他

７　結果

（１）開会（司会：國分産業廃棄物課主任主査）

（２）議事録署名人

髙橋龍之委員と油井妙子委員が指名された。

（３）議事

議事については、河津賢澄委員を議長として審議を進めた。

ア　福島県水環境保全基本計画の改定について及び猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画の改定について

事務局（小池水・大気環境課長）から資料１－１～６及び２－１～６により説明した。

質疑については以下のとおり。

【河津議長】

福島県水環境保全基本計画及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画について、御意見、御質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。

【西村委員】

資料１－３の24ページ、表９に真野ダムが含まれていますが、図８には真野ダムに関するグラフがないので追加をお願いします。

もう一点は、28ページに記載の林業アカデミーについては、福島県林業研究センター内に設置されると理解していますが、林業アカデミーと林業大学校の違いは何でしょうか。

【小池水・大気環境課長】

真野ダムについては、元となるデータがないため、記載していないという状況でございます。

林業大学校については、農林水産部の部局となっていますので、確認して後ほど回答させていただきます。

【西村委員】

資料２－３、５ページについて、ｐＨの上昇の要因として、源流域からの硫酸イオンの供給量や源泉水の性状の変化などが考えられると記載があります。

一方で、８ページの図１のイメージでは、鉄イオンやアルミニウムイオンについて記載されているものの、硫酸イオンについては記載がありません。このイメージに誤りはないでしょうか。確認していただいて、加筆修正をお願いします。

【小池水・大気環境課長】

確認の上、できるだけ正確な表現にしていきたいと思います。

【崎田委員】

海洋プラスチック問題に関してかなり加筆していただいたので、順を追って

確認したところなんですが、資料１－３、36ページに水辺地の清掃美化活動の項目について、海岸漂着物の調査と発生抑制のマイバック・マイボトルに関する記載があります。この問題には、発生抑制、河川における調査や清掃、海岸漂着物の調査の３点がポイントになると思いますが、河川における調査や清掃の要素が含まれていないことが気になりました。海洋漂着物のほとんどは河川に由来すると思います。福島県ではかなり海洋における海岸漂着物等の調査は進めていることから、その結果を受けたその後の取り組みをどのようにするかを検討してよいのではないでしょうか。

【小池水・大気環境課長】

御意見を踏まえて、この部分の取り組みについて修正などを検討したいと思います。

【沼田委員】

計画とは全く違うところの話かもしれませんが、ここ数日の報道において、猪苗代湖で発生したプレジャーボートの件が全国的に取り上げられています。水環境に親しむことが福島県水環境保全基本計画及び猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画に記載があるため、水環境の安全性についても記載すべきではないかと考えます。水環境に親しむことは安全が確保された上での実施されるものではないかと思います。

【小池水・大気環境課長】

資料２－３、36ページ、３（４）①に「プレジャーボートの利用に際しては、猪苗代湖水面利活用基本計画推進協議会が規定した遊泳者、手こぎボート、プレジャーボート等の湖面利用の設定エリア（ゾーニング）を遵守するなど、湖水浴客などの利用者や付近の住民に迷惑をかけないようにするとともに、自然環境にも配慮します。」と記載しているところです。

猪苗代湖水面利活用基本計画推進協議会が設定したエリアの遵守を働きかけているところでございます。

【河津議長】

沼田委員の指摘については、猪苗代湖での利用に限らず、海辺の安全なども含むものと思われるので、福島県水環境保全基本計画についても同様に反映を検討いただければと思います。

【沼田委員】

猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画については分かったが、福島県水環境保全基本計画にも記載すべきと思います。

【小池水・大気環境課長】

福島県水環境保全基本計画についても同様な記載を検討していきたいと思います。

【河津議長】

他にいかがでしょうか。

それでは、只今の議題１、議題２については、本日の審議を終了したいと思います。

イ　福島県廃棄物処理計画の改定について

事務局（三浦一般廃棄物課長、濱津産業廃棄物課長）から資料３－１～４により説明した。

質疑については以下のとおり。

【河津議長】

皆さんから御質問を受けたいと思います。福島県廃棄物処理計画についての意見等がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

崎田委員、お願いします。

【崎田委員】

リサイクル率に関して、一般廃棄物の排出量が多いということは、リサイクルが進んでいないという因果関係があるわけですが、今回の計画では、リサイクル率の目標値を下げているんですね。

ただし、一般廃棄物の排出量や最終処分量は目標値を厳しくしているので、リサイクル率を下げると目標達成するのは難しいんじゃないかなと。

今 12.7%で、令和８年 16%となっているが、これまでは令和３年度が 21%の目標だった。ちょっと高過ぎるなんていう反省なのかもしれませんけれども、やはり日本の平均値が大体そのぐらいですので、あんまりここ緩くせずに、もう１回しっかりやるという方向でも良いのではないかと思います。

【河津議長】

ありがとうございました。

事務局からお願いします。

【三浦一般廃棄物課長】

リサイクルにつきましては、本県に限らず、商業施設での資源物回収がかなり数字的に大きくなっているという傾向にあり、全国的にも市町村のリサイクル率を上げるのは難しい状況となっています。

また、全国についても同じように考察した時に、従来設定していた 21%という数値目標は難しいということです。今回掲げる目標値についても厳しいかと思いますが、リサイクル等を徹底することによって、何とか数字をここまで持っていきたいと考えているところでございます。

【崎田委員】

全国的な平均値から考えると、もう少し高い設定でどうかという感じがしますので、例えば商業施設での回収が非常に多い時に、例えば、市町村など自治体と連携をして店頭回収をやっていただいて、市町村のほうにも数字を共有するといったいろいろなやり方があると思いますので、御検討いただければありがたいなと思います。

【三浦一般廃棄物課長】

従来の統計の方法といたしましては、市町村で回収したものに限定されておりますので、今、委員おっしゃったことについて、どのような対応ができるかについて検討していきたいと考えます。

【河津議長】

商業施設に行くというのは非常に多くなっていることが、スーパーに行くとよくわかると思うんですけども、それをどうカウントするかとか、表現でどうするかというのは、施策を組む上でも、非常に大きな話かと思っています。

ぜひその辺は考えていただきたいなと思います。

【三浦一般廃棄物課長】

補足いたしますと、本県においても、資源回収の実態がどうなっているか、昨年度も調査を行っており、やはり商業施設の数字を加えますと、現時点での実績を上回る状況にあります。環境省にも話をしましたが、統計については、今までどおり、市町村で回収して処理等したものについてということでした。

そういった経緯がありましたので報告だけさせていただきます。

【崎田委員】

状況分かりました。

事業所が生産をして販売したものは、自分たちの自己責任で回収する。それが企業の責任という大きな流れが出来ていますので、事業者さんが、自分たちで回収しようという動きは奨励していただいたほうがいいと思います。その様子をどう把握するかというのは、これからしっかり課題にしていただきたいが、プラスチックの新しい法律では、柔軟にできる形になりつつあるという、まずそういう新しい取組をしているのではないかなというふうに思いますので、その辺の数値の計算の仕方というのは、私も課題意識ちゃんとしていきたいと思いますので、ぜひ、うまく把握しながらですね、普及啓発の時には市民の方にちゃんと様子をお伝えするなどしていただければありがたいかなと思います。

【河津議長】

ありがとうございました。

一般の方への見せ方もあるわけですので、何となく行政が後退しているとか、何か出来てないということでは決してないと思います。そこを上手く表現できればいいかなと思います。

武石委員お願いします。

【武石委員】

資料３－２の 20 ページの 17 行目、やはり同じように、商業施設等における資源回収の増加が主な原因であると考えられと書いてあり、商業施設で資源回収をすることが、悪いことのような書きぶりに感じてしまいます。むしろ、崎田委員が言ったように、排出元の売った事業者がどんどん回収するのは良いことで、奨励すべきことだと思います。これを単に統計の数字のみによって、意

欲を減らすようなことはよくないような気がします。

それに私個人としても、資源回収の日が何曜日と決まっているが、実際その日に重い新聞とか雑誌を朝はバタバタして大変なんですね。それよりは土日に、車で行って出したほうがよほど便利なので、そういう行政の負担を減らす意味でも、むしろそれは良いことだという主張を計画の中でもどんどんやってほしいみたいな雰囲気で書かれるのが良いのではないかな。統計処理の仕方は工夫すればいい話であります。資料３－４の２番目の、質問で答えているが、商業施設での回収が増加するとリサイクル率が低下する。これは、実際にリサイクル率が低下しているわけではないんですよね。民間の方に行っているだけで、全体のリサイクル率はひょっとしたら上がっているかもしれない。行政が市町村別にやっているリサイクル率が下がっているだけの話なんで、その辺は工夫していただきたいなと思います。むしろ奨励すべき話のような気がします。

【河津議長】

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

【髙橋環境回復推進監兼環境保全担当次長】

リサイクル率に関して補足で御説明させてください。

２点ございます。

１点はですね、武石委員からもお話しいただいた、表現の中で、商業施設による資源回収が増加すると、リサイクル率が下がるという、正面から書くと実はそうですけども、実質的におっしゃるように、商業施設を御利用いただいても、市町村のリサイクルの分別収集に出しても、同じくそれは再生利用されるわけで、そこは数字上の課題については、そこは分かるように記載をしたいと思います。

あともう１点、崎田委員の方からお話しいただいたリサイクル率の目標ですけども、現在は１人当たりの排出量もリサイクル率も非常に低い状況にありますが、今回のリサイクル率の目標設定に当たっては、７月に行った書面開催の時に考え方の資料を作らせていただいたが、両方とも今も全国下位の方におります。

県の総合計画の目標である令和 12 年度には、それぞれ全国の平均値よりもいい値になるよう目標設定を長期的な視点で設定しています。

今回の廃棄物処理計画の令和８年度はその中間に当たるので、最終的には全国の平均値よりもいい値となることを目指してその中間値を基本的にとって目標としています。

ごみの排出量は当然減らしますが、リサイクル率に関しては、全国でも長期的には下がってくるというような傾向がありますので、従前の目標よりも低い値ではありますが、長期的な目標としては全国平均値よりも高い位置に令和 12 年度にはなるように設定をさせていただいているということで、従前の目

標から比べるとちょっと低いですけれども、現実としてそこを達成するのはすごく高い目標と考えております。

【河津議長】

はい。ありがとうございました。ちょっと分かりづらいところがありますので、次の部会で、もう少しわかりやすい説明をお願いしたいと思います。

やはり、委員の皆が気にしているのは、全国でワースト２位と言うのは刺激的ですし、福島県民がそんなにごみについて問題意識が欠如しているとは思わないし、多くの県民もそう思っているかと思います。統計上の話でそうなっているだけであるとすれば、これは非常に問題があるという感じがします。

それを含めて、もう少しわかりやすい形にしていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

沼田委員、お願いします。

【沼田委員】

２点だけございます。

まず１点目は、予測値というのが書いてありますが、どう計算したのかわからないので教えて欲しいというのが１点です。

２点目は、資源回収の量が把握できないということなので、これは私が思いついた提案なんですけど、集団回収は集団回収奨励金というものを行政が渡しているから、集団回収の量が把握できるのだと思うのですが、行政がやっていない店頭回収にも何らかの補助金的なものを市町村が与えるという仕組みを導入すれば、店頭回収の量も分かるんじゃないかなと。私が知っている限りでは、店頭回収しているところはコストをかけて回収している、特にペットボトルに関しては費用に見合わないことをやっていると聞いています。そういうところに補助をするから情報を教えてちょうだいといったギブアンドテイクみたいな関係ができればもう少し情報が把握できて、その形で福島で始めまして、全国に広がっていけば資源回収量をもっと補足できてよいのではないかなと思います。いかがでしょうかという２つ目は提案なんですけども、２点お願いしたいと思います。

【三浦一般廃棄物課長】

まず、予測値の算出についてでございますが、全国の予測値は近年５か年、平成 27 年度から令和元年度までのデータをもとに推計を行った値でございます。

本県につきましては、近年４か年ということで、27 年から 30 年、なお、令和元年度につきましては、東日本台風の影響で数字的に急に上がったということがありましたので、それを除いたデータをもとに行った推計値でございます。

２点目の店頭回収に対する補助金等の検討についてということでございますが、そういった取組が果たして可能かどうか、仮に可能であれば例えば環境省なりの補助金の対象となるのかどうかも含めて、確認させていただきたいと

思います。

【沼田委員】

ありがとうございます。

【河津議長】

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは福島県廃棄物処理計画に関しましては、今意見が出てきておりますので、それらの意見を踏まえて事務局で案を作っていただければと思います。

併せてパブリックコメントについては、基本的にはこのような形で、多少変更あるにしてもその辺は部会長である私と事務局で調整させていただければと思いますがよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

ありがとうございます。

それでは、パブリックコメントを行う際の案につきましては、私と事務局で調整しながら対応させていただきたいと思います。

以上で、議事３「福島県廃棄物処理計画の改定について」は審議を終了したいと思います。

【河津議長】

全体を通していかがでしょうか。事務局からは何かありますでしょうか。

【渡邉水・大気環境課副課長】

先ほど西村委員から御質問ありました２点について、補足説明させていただきます。

１点目ですが、資料１－６、質問７番について、林業アカデミーと林業大学校の違いについて御質問いただいた件についてです。結論から言えば同じであります。各都道府県で林業アカデミーや林業大学校という名称で教育機関を設置しており、本県においては、令和２年11月に「林業アカデミーふくしま」という名称が決定しましたが、それまでについては仮称で林業大学校という名称を使用していたものでございます。

もう一点ございまして、資料２－３、８ページについて、猪苗代湖の水質浄化イメージが違うのではないかとの御指摘をいただきました。こちらの水質浄化メカニズムについては、リンなどの水質汚濁物質はマイナスのイオンに帯電しており、それだけでは互いに反発してフロックを形成しないが、鉄やアルミニウムなどのプラスに帯電したイオンが入ってくると、電気的に中和が発生し、フロックを形成して、水よりも比重が重いため、沈降していということで、これは工場や事業場において、排水基準を遵守するために、ｐＨ調整をしながら凝集沈殿を行うものと同じ仕組みであると理解しております。ここで、イメージ図に用いているのは凝集沈殿に関与する物質である水質汚濁物質と、それに関わる鉄やアルミニウムイオンのみを記載しております。ｐＨ調整に関わる硫

酸イオンについてはあえて記載しなかったということでございます。こちらの計画は一般の方に示す内容であり、ｐＨ調整も含めて記載するとわかりにくいと判断しまして、省略し、模式図とさせていただきました。

【河津議長】

本文を見ると、硫酸イオンという言葉があるにもかかわらず、イメージ図には記載がないため、説明とイメージ図が異なることから、硫酸イオンのイメージ図への記載について検討をお願いします。

【渡邉水・大気環境課副課長】

硫酸イオンも含めた形で検討してまいりたいと思います。

【河津議長】

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、長い時間、貴重な御意見ありがとうございました。これを持ちまして、環境審議会第２部会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

（４）その他

なし

（５）閉会